

東日本大震災によるガス事業及び LNG 調達への影響について(4 月 28 日時点)

財団法人日本エネルギー経済研究所

大震災の影響で、4 月 28 日現在、1,959 戸向けの都市ガス供給が停止されている。一方、復旧作業は急ピッチで進められており、これまでに 400,017 戸向けの供給が復旧した。LNG 基地では、仙台市ガス・港工場が稼働停止しており、復旧の目途は立っていない。2011 年度の電力会社による LNG 需要は 2009 年比で約 620~860 万トン増加することが見込まれるが、追加 LNG 供給力に大きな問題はない。国際天然ガス市場も落ち着きを取り戻している。

1. 都市ガス供給

日本ガス協会によると、4 月 28 日 10 時現在での都市ガス供給停止戸数は 1,959 戸である。供給停止戸数は一時約 46 万戸にも達したが、3 月末より復旧が急ピッチで進んだ。現在の都市ガス供給復旧率は 99.5%に達している。現在でも供給停止が続いているのは宮城県の石巻ガス供給区域の一部のみであるが、これも近日中に復旧すると思われる。

2. LNG 受入基地

LNG 受入基地では、仙台市ガス局の港基地が稼働を停止しており、依然として復旧の目途は立っていない。その他の受入基地は全て稼働を継続している。

3. LNG 調達

日本エネルギー経済研究所が 4 月 26 日に発表した試算によると、2011 年度の電力会社による LNG 需要は 2009 年度比で約 620~860 万トン増加し、約 4,660~4,890 万トンに達する。増加量については、スポット・短期契約、既存長期契約の UQT¹、LNG 融通で調達することになる。既にカタルは今後 1 年間で 400 万トン、インドネシアは年内に 100 万トンを追加供給することを表明しており、他にもロシアやオーストラリアといった国々から一定の追加供給が見込まれている。LNG 需給が緩和していたことから、追加 LNG 供給力に大きな問題はないと思われる。

4. 国際天然ガス市場

米国 Henry Hub 価格は\$4/MMBtu 強と前回(4 月 4 日時点)の報告から大きな変化はない。大陸欧州でのハブ価格も依然として\$10/MMBtu 前後で推移しているが、英国 NBP 価格は気温上昇や LNG 輸入の増加によって\$9/MMBtu に弱含んでいる。アジア向けスポット価格は\$12~13/MMBtu の模様である。前回の報告からは\$1/MMBtu 前後上がっているものの、パニック的な調達や価格暴騰は発生していない。追加調達規模を勘案すれば、市場は落ち着いていると見て良いだろう。

お問合せ: report@tky.iej.or.jp

¹ Upward Quantity Tolerance(契約量上方弾力性)。通常、LNG の長期契約では契約量を±5~10%程度増減することが出来る。